

平成17年3月期 中間決算説明会

平成16年11月18日

平成16年4月－平成16年9月

ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

Contents

1. 17年3月期中間期の概況
2. 17年3月期中間期の総括
3. セグメント別実績-1
4. セグメント別実績-2
5. 計測・計量機器事業売上高
6. DSP事業について-1
7. DSP事業について-2
8. DSP事業について-3
9. 医療・健康機器事業売上高
10. 家庭用血圧計の生産状況
11. 家庭用血圧計の販売状況
12. 財務分析(貸借対照表)
13. 財務分析(キャッシュフロー)
14. 資本・株主政策
15. 設備投資・減価償却費の推移
16. 為替の影響について
17. 17年3月期通期見通し
18. 通期見通し達成のポイント
19. セグメント別見通し-1
20. セグメント別見通し-2
21. 計測・計量機器事業の売上高見通し
22. 医療・健康機器事業の売上高見通し
23. 補足資料

17年3月期中間期の概況



(単位：百万円)

連 結 損 益	16年3月期 中間期実績	17年3月期 中間期実績	前 年 同 期 比	17年3月期 中間期予想	予 想 比
売 上 高	10,938	12,342	+12.8%	11,793	+4.7%
営 業 利 益	676	1,104	+63.2%	884	+24.9%
経 常 利 益	440	970	+120.1%	687	+41.3%
税 引 き 前 利 益	385	858	+122.8%	636	+34.9%
当 期 純 利 益	142	545	+283.4%	447	+22.0%
1 株 当 たり 利 益 (円)	15.84	59.44	+275.3%		

(注) 17年3月期中間期予想は、5月19日付の「平成16年度3月期決算短信（連結）」にて発表した予想であります（以下同じ）。

17年3月期中間期の総括



対前年同期比で増収を達成

中間期は、DSPの売上高はほぼ前年同期比並に止まったものの、ロシア向け血圧計の大幅な伸びが牽引する形で医療・健康機器事業が対前年同期比20.4%伸び、売上高は前年同期比12.8%増の12,342百万円となりました。

営業利益は額で63.2%増、売上高営業利益率は8.9%まで上昇

売上を大きく伸ばした血圧計の自社生産割合が増加したことなどを要因として、中間期の営業利益は対前年同期比63.2%増加し1,104百万円となり、売上高営業利益率も2.76%上昇して8.95%となりました。

当期純利益は、税効果会計の影響もあり545百万円となり3.8倍に増加。

公募増資で財務体質が強化

公募増資及び増益による剰余金の増加により、資本合計は対前期に比べ3,106百万円増加して10,647百万円となりました。この結果、株主資本比率は、16年3月末から7.7%増加して34.4%となり、財務体質が強化されました。

セグメント別実績－1



(単位：百万円)

セグメント		16/3期 上期実績	17/3期 上期実績	前年 同期比	17/3期 上期予想	予想比
計測・計量機器事業	売上高	6,925	7,510	+8.4%	7,662	-2.0%
	売上原価	3,992	4,450	+11.5%	4,440	+0.2%
	販管費	2,190	2,447	+11.7%	2,480	-1.3%
	営業利益	742	612	-17.6%	742	-17.6%
医療・健康機器事業	売上高	4,012	4,832	+20.4%	4,130	+17.0%
	売上原価	2,594	2,694	+3.8%	2,507	+7.4%
	販管費	1,095	1,212	+10.7%	1,103	+9.8%
	営業利益	322	925	+187.5%	518	+78.5%
配賦不能費用		387	433	+11.8%	376	+15.0%
営業利益計		676	1,104	+63.2%	884	+24.9%

計測・計量機器

- ・売上高は前年同期比584百万円（8.4%）増に留まり、予想比2.0%減
→ DSP事業が伸び悩み
- ・売上原価が前年同期比457百万円（11.5%）増加
→ DSP特注システム（エンジンベンチ等）のイニシャルコスト増
→ 電子ビーム関連ユニットにおいて、昨年度発生した品質・性能問題
の手直し費用発生
- ・営業利益は前年同期比130百万円（17.6%）減
→ 研究開発費の増加で販売管理費が前年同期比257百万円（11.7%）増

医療・健康機器

- ・売上高は前年同期比820百万円（20.4%）増で、予想比でも17.0%増
→ 家庭用血圧計がロシアを中心に好調
- ・営業利益は前年同期比603百万円（187.5%）増で、予想比でも78.5%増
→ 生産増に伴う中国工場の稼働率アップでコスト削減効果大

計測・計量機器事業売上高



(単位：百万円)

製 品 種 別	16年3月期 中間期実績	17年3月期 中間期実績	前 年 同 期 比	17年3月期 中間期予想	予 想 比
計 測 機 器	821	749	-8.7%	776	-3.5%
計 量 機 器	4,510	4,858	+7.7%	4,657	+4.3%
計測・制御・シミュレ ーションシステム (DSP)	657	668	+1.7%	998	-33.1%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	935	1,232	+31.7%	1,230	+0.2%
売 上 合 計	6,925	7,510	+8.4%	7,662	-2.0%

計測機器・計量機器

：全体的に堅調に推移

DSP

：引き合い増加（見積もり提出件数は前年同期比44%増加）も受注・売上に繋がらず

電子ビーム関連ユニット：受注は順調に推移

(単位：百万円)

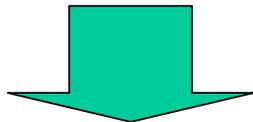
用 途 種 別	15/3期 (実績)		16/3期 (実績)		17/3期 (実績)
	上期	下期	上期	下期	上期
自 動 車 関 連	289	437	486	611	436
試 験 機 関 連	82	71	103	83	119
そ の 他	78	114	68	120	113
売 上 合 計	450	623	657	814	668

自動車業界をはじめ引き合いは多くなってきており、見積提出件数は前年上期240件に対して今上期は345件となっている。しかし、顧客の予算執行の時期が下期に偏っており、新製品の遅れもあり上半期は計画未達。ただし、上半期後半から受注が伸び始めており、エンジンベンチの完成、新プラットフォーム（AD5440、AD5435）のリリース、海外アライアンス体制の構築等、今後を見据えた布石は進んでおり、下期以降は成長を持続。

エンジン実験棟の完成 (2004. 7. 29)

自動車業界への更なる深耕のため、エンジンベンチを当社開発・技術センター内に設置

- ①当社DSP商品を使って実際にエンジンを制御する事で、顧客へのデモンストレーションを行う
- ②自動車ECUの適合においての過渡適合を実証
→新たなマーケットに進出



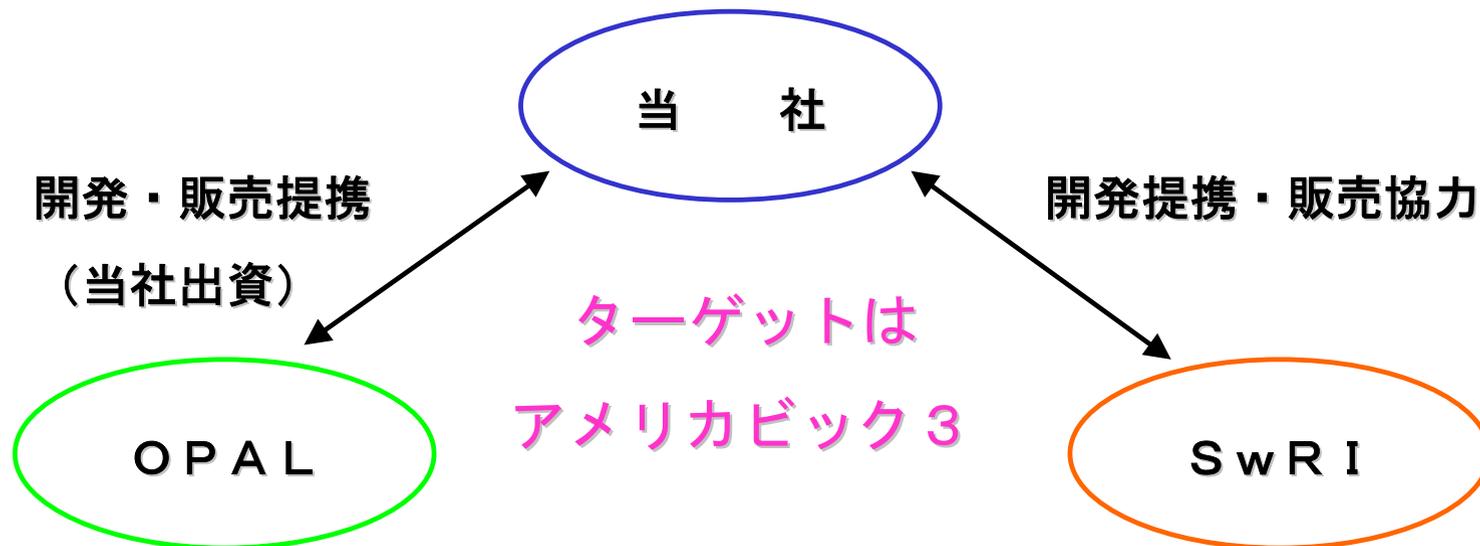
大手自動車メーカーの視察が相次ぎ、引き合いも増加



過渡適合

適合とは、自動車のECUの最適化を行う事であり、従来の方法（定常適合）でかかった時間を大幅に短縮して精度を向上する方法として、当社は過渡適合を実現

世界進出のためのアライアンス体制の構築



- ・次世代高性能プラットフォームの共同開発
- ・OPALがGMのDSPベンダーに加わるために当社が協力し、今年度中に共同で販売網を米国に確立する予定

- ・SwRI開発の車両モデルソフトRAPTORを当社DSPシステムで使用するために共同研究を実施
- ・RAPTORを使用するクライスラーに共同で売り込みを図る

OPAL及びSwRIについては補足資料2を参照

医療・健康機器事業売上高



(単位：百万円)

製品種別	16年3月期 中間期実績	17年3月期 中間期実績	対前年 同期比	17年3月期 中間期予想	対予想比
医療機器	711	773	+8.8%	711	+8.7%
健康機器	3,301	4,059	+23.0%	3,419	+18.7%
売上合計	4,012	4,832	+20.4%	4,130	+17.0%

医療機器：全自動血圧計、メディカル計量器が好調

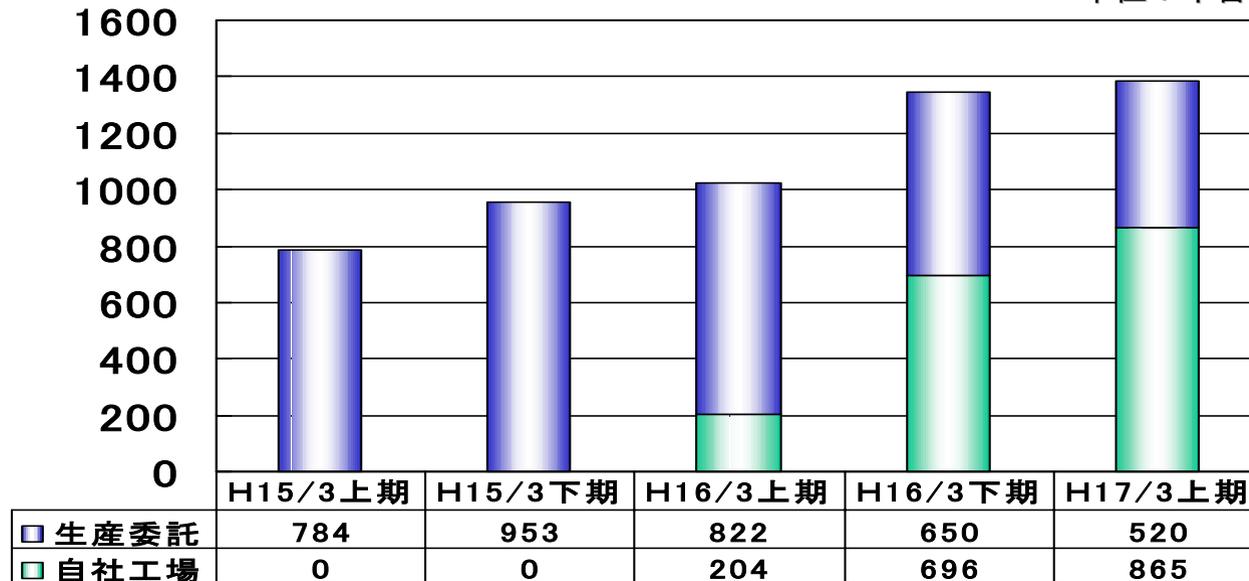
健康機器：ロシアが好調で、欧米でも堅調に推移

家庭用血圧計の生産状況



中国における家庭用血圧計の生産状況

単位：千台



中国の生産工場増設の状況について

総投資額 49,000千円

増産能力 50% (この結果、月産総生産能力は18万台)

完成日時 平成16年8月末

家庭用血圧計の販売状況

当社家庭用血圧計の地域別販売状況 (単位：百万円)

販 売 地 域	15/3期 (実績)		16/3期 (実績)		17/3期 (実績)
	上期	下期	上期	下期	上期
北 米 地 域	1,437	1,467	1,252	1,320	1,285
欧 州 地 域	339	348	366	539	499
ロ シ ア	500	747	1,047	1,015	1,611
ア ジ ア 他	374	489	437	528	420
合 計	2,649	3,051	3,103	3,402	3,815

ロシアでの販売拡大の理由

- ・ロシア自由化と経済発展の中、健康自己管理ニーズの増大もあり、市場が拡大している
- ・他社に先駆けて本格的に市場開拓を行い、強力な販売パートナーと提携
- ・流通変革（高級指向とディスカウント指向の2分化）に的確に対応して、新製品で市場を更に拡大（ロシアでの現在のシェアは当社推定値で約6割）
- ・アフターサービスの整備、医師との関係がうまくいった

財務分析（貸借対照表）



■ 貸借対照表分析

（単位：百万円）

連結貸借対照表	16 / 3 期 末	17 / 3 中 間 期	対前期比	コ メ ン ト
流動資産合計	20,755	23,401	+12.7%	現金及び預金+2,284 受取手形及び買掛金+520
固定資産合計	7,474	7,542	+0.9%	
資産合計	28,230	30,943	+9.6%	
負債合計	20,099	20,089	-0.1%	
少数株主持分	589	206	-65.0%	(株)オリエンテック完全子会社 化により△383
資本合計	7,541	10,647	+41.2%	増資に伴い資本金+1,275、資 本剰余金+1,274 利益剰余金+500
負債及び資本合計	28,230	30,943	+9.6%	

財務分析（キャッシュフロー）



■ キャッシュフロー分析

（単位：百万円）

連結キャッシュフロー	16 / 3 中間期	17 / 3 中間期	コ メ ン ト
営業活動によるCF	-652	828	税前純利益+858、減価償却費+384 棚卸資産の減少+238、売上債権の増加△447、仕入債権の減少△396
投資活動によるCF	-621	-955	関係会社（株オリエンテック）株式 取得△418、有形固定資産の取得 △321、無形固定資産の取得△210
財務活動によるCF	1,492	2,323	増資による収入+2,549、長期借入金 の増加+495、短期借入金の減少△673
現金及び現金同等物の増加額	212	2,247	
現金及び現金同等物の期末 残高	2,438	4,343	

■ 増資

(1) 調達金額

- ・ 公募増資等により 2,511,323千円

その結果、自己資本比率が26.7%（16年3月末）から34.4%（16年9月末）にアップ

(2) 使用目的

- ・ 研究・開発スペース拡大のための社屋増設等（1,000,000千円）
- ・ 新規事業（DSP事業）促進のための開発研究費の調達（500,000千円）
- ・ 有利子負債削減による財務体質の強化

■ 株式分割・単元株式数引下げ

(1) 実施内容（11月19日実施）

- ・ 9月末の株主に対して株式を1対2に分割
- ・ 単元株式数を1,000株から100株に変更

(2) 目的

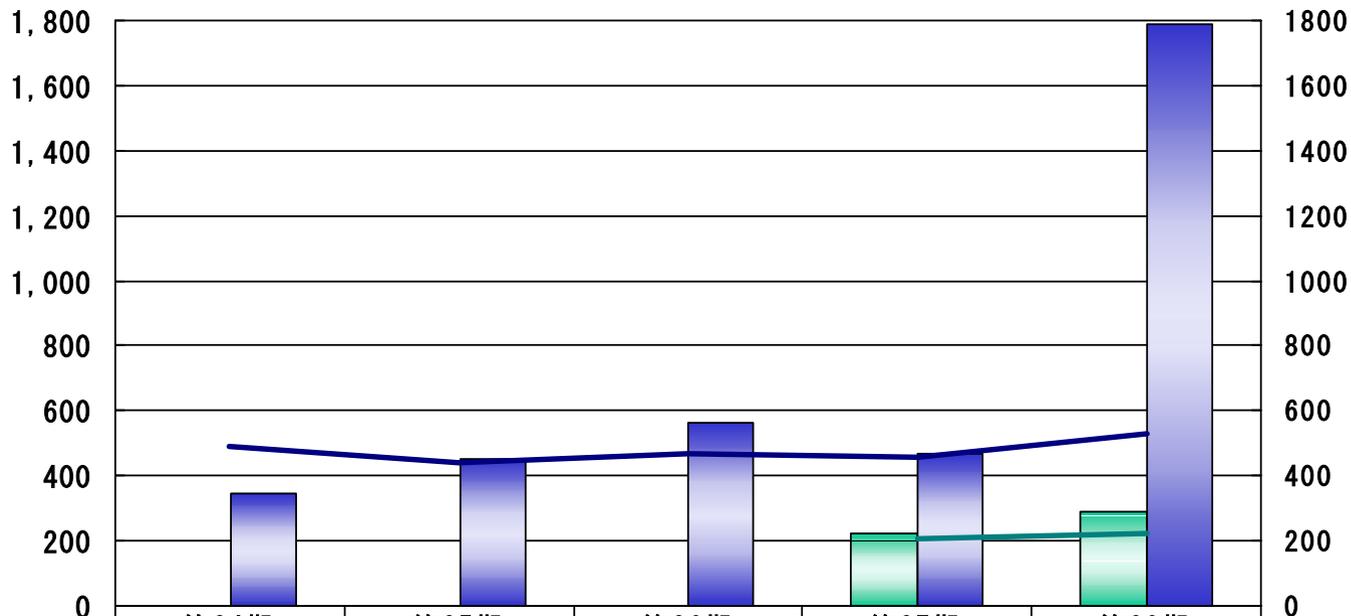
- ・ 株式の流動性向上を図り、投資しやすい環境を整えて投資家層の拡大を図る
- ・ 実質配当の増加（2.5円→3.0円）で、株主の長期保有を促進

設備投資・減価償却費の推移



(単位：百万円)

(単位：百万円)



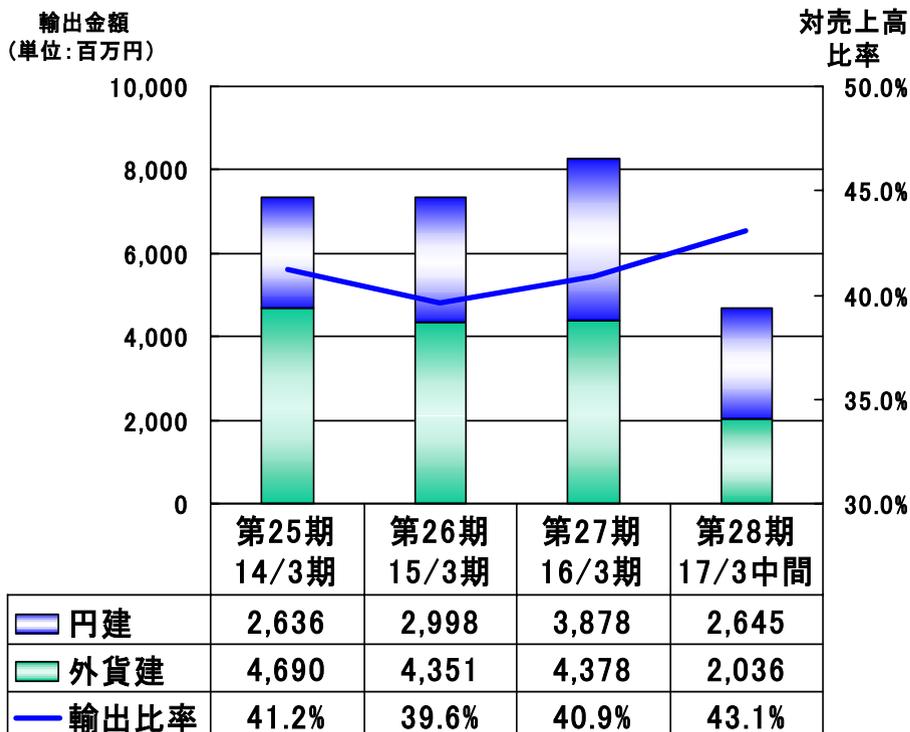
	第24期 13/3	第25期 14/3	第26期 15/3	第27期 16/3	第28期 17/3(予)
■ 中間期設備投資				224	290
■ 通期設備投資	347	454	561	466	1,787
— 中間期減価償却費				206	223
— 通期減価償却費	490	440	467	456	531

平成17年3月期設備投資は、研究・開発スペース拡大のための社屋増設等のため拡大

為替の影響について



輸出の状況



17年3月期中間期の外貨建て取引の状況

通貨 (千単位)

区分		通貨		
		ドル	ユーロ	オーストラリア ドル
フロー	販売	16,402	3,030	1,152
	仕入	19,410	2	1,457
	差額	-3,008	3,028	-305
ストック	債権	13,825	1,563	266
	債務	9,726	0	275
	差額	4,099	1,563	-9

※A & D単体での状況です

17年3月期通期見通し



(単位：百万円)

連 結 損 益	16年3月期 通 期 実 績	17年3月期 通 期 見 通 し	対 前 期 比
売 上 高	22,870	26,095	+14.1%
売 上 原 価	13,524	15,303	+13.2%
販売費及び一般管理費	7,518	8,168	+8.7%
営 業 利 益	1,827	2,623	+43.5%
経 常 利 益	1,427	2,290	+60.5%
当 期 純 利 益	750	1,337	+78.3%
1株当たり利益(円)	83.18	69.21	-16.8%

通期見通し達成のポイント

<全体>

- ・売上高は前期比3,224百万円（14.1%）増

- ・経常利益は前期比862百万円（60.5%）増

- ・純利益は587百万円（78.3%）増

→上期は見通しをオーバー達成、下期の見通しは経済環境の先行きが不透明なため当初予想を踏襲

- ・1株当たり利益は、増資及び株式分割により減少

<新規事業>

- ・見通し達成の鍵はDSP事業の予算達成

<既存事業>

- ・新製品投入により、上期に引き続き好調を維持

セグメント別見通し-1



(単位：百万円)

セグメント		16/3期 (実績)	17/3期		前期比	
			上期実績	下期見通		
計測・計量機器事業	売上高	14,393	7,510	8,823	16,333	+13.5%
	売上原価	8,324	4,450	5,004	9,454	+13.6%
	販管費	4,538	2,447	2,537	4,984	+9.8%
	営業利益	1,531	612	1,282	1,894	+23.7%
医療・健康機器事業	売上高	8,476	4,832	4,928	9,761	+15.2%
	売上原価	5,200	2,694	3,154	5,848	+12.5%
	販管費	2,229	1,212	1,145	2,357	+5.7%
	営業利益	1,046	925	628	1,554	+48.6%
配賦不能費用		749	433	392	825	+10.2%
営業利益計		1,827	1,104	1,518	2,623	+43.5%

計測・計量機器事業

- ・売上高は前期比1,940百万円（前期比13.5%）増加を見込む
 - DSP事業の大幅な増加を図るために、上半期の引き合いを受注・売上に
つなげる
 - 計量機器事業において、投入した新製品の販売拡大を図る
- ・営業利益は前期比363百万円（23.7%）増加を見込む
 - DSP事業の売上拡大により利益率の向上を図る

医療・健康機器事業

- ・売上高は前期比1,284百万円（15.2%）増加を見込む
 - 新製品の投入
- ・営業利益は前期比508百万円（48.6%）増加を見込む
 - 家庭用血圧計の自社生産化による利益効果の維持

計測・計量機器事業の売上高見通し



(単位：百万円)

製 品 種 別	17/3期 上期実績	17/3期 下期見通	16/3期 下期実績	対前期比	17/3期 通期見通	対前期比
計 測 機 器	749	908	896	+1.4%	1,658	-3.4%
計 量 機 器	4,858	4,977	4,557	+9.2%	9,835	+8.5%
計測・制御・シミュレーションシステム (DSP)	668	1,717	814	+111.0%	2,386	+62.1%
電子ビーム関連ユニット	1,232	1,220	1,200	+1.6%	2,452	+14.8%
売 上 合 計	7,510	8,823	7,467	+18.2%	16,333	+13.5%

計測機器

： DSP応用製品が上半期好調で、下期も好調を維持

計量機器

： 新製品の認知度を上げて販売拡大（粘度計、計量コントローラ、ローコスト台秤）

DSP

： 上半期の引き合いを確実に受注・売上に結びつけ、エンジンベンチ効果等により自動車業界で売上確保

電子ビーム関連ユニット

： 電子銃における受注・売上の確保

医療・健康機器事業の売上高見通し



(単位：百万円)

製品種別	17/3期 上期実績	17/3期 下期見通	16/3期 下期実績	対前期比	17/3期 通期見通	対前期比
医療機器	773	852	814	+4.6%	1,625	+6.6%
健康機器	4,059	4,076	3,649	+11.7%	8,135	+17.0%
売上合計	4,832	4,928	4,463	+10.4%	9,761	+15.2%

医療機器：新製品（テレモニタ、医療用血圧計）の投入

健康機器：家庭用血圧計の新製品をロシア・欧州に投入

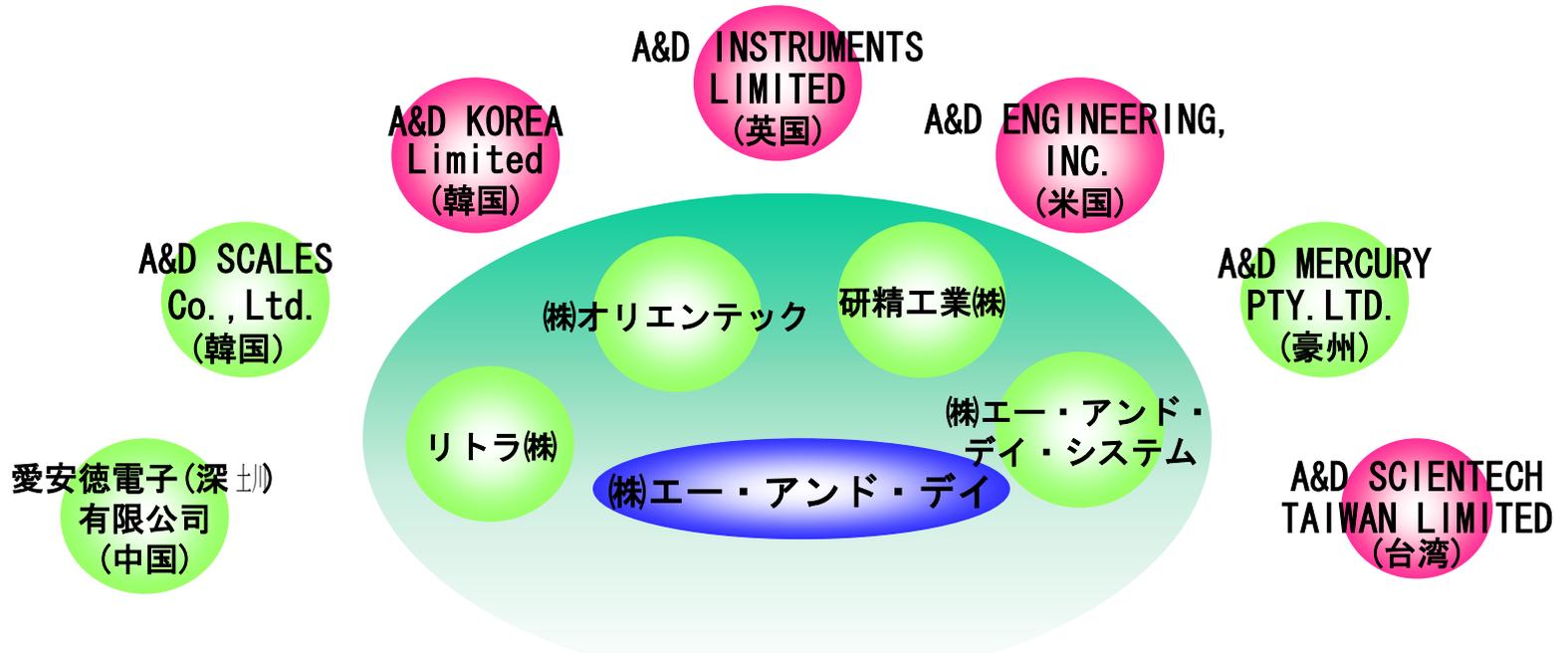
中国市場への進出に向けて、販売の体制作りを進める

補 足 資 料



- 1 グループの概況
- 2 SwRI / OPALについて
- 3 開発の状況
- 4 電子天びんの国内市場シェア

グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動
 生産主体は国内外関係会社
 海外販売は関係会社経由と直販を併用

(株)オーリエントック

(株)イー・アンド・デイ・システム

平成16年9月に100%子会社化

平成17年1月に吸収合併



生産・開発関係会社



販売関係会社

■ SwRI (Southwest Research Institute)

(1) 組織概要

- ・ 政府や企業からの受託研究を行っているアメリカの非営利団体（職員2800名）
- ・ 研究範囲は自動車、航空・宇宙、医療等、広範囲にわたる（11 Division）
- ・ 欧米・日本の自動車メーカーとのパイプもあり、この業界では非常に有名

(2) 提携の経緯

- ・ SwRI→当社の技術水準を高く評価しており、RAPTORの拡販にも期待
- ・ 当社→SwRIの自動車メーカーとの太いパイプを世界戦略に生かせる

■ OPAL (Opal-RT Technologies, Inc)

(1) 会社概要

- ・ カナダのDSPベンダーで、JMAABのHILSワーキングのメンバー
- ・ ユーザーはGM/デルファイ（米国）及びトヨタ

(2) 提携の経緯

- ・ OPAL→GMがグローバル対応を求めており、当社と手を組む事が得策と判断
- ・ 当社→双方の得意分野を生かせ、世界進出の足掛りとなると判断

(3) 当社の資本参加について

双方の関係強化のために約600,000カナダ\$（日本円で50百万円強で全株式の7.7%）を出資

開発の状況



社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

(平成16年9月末/A & D単体)

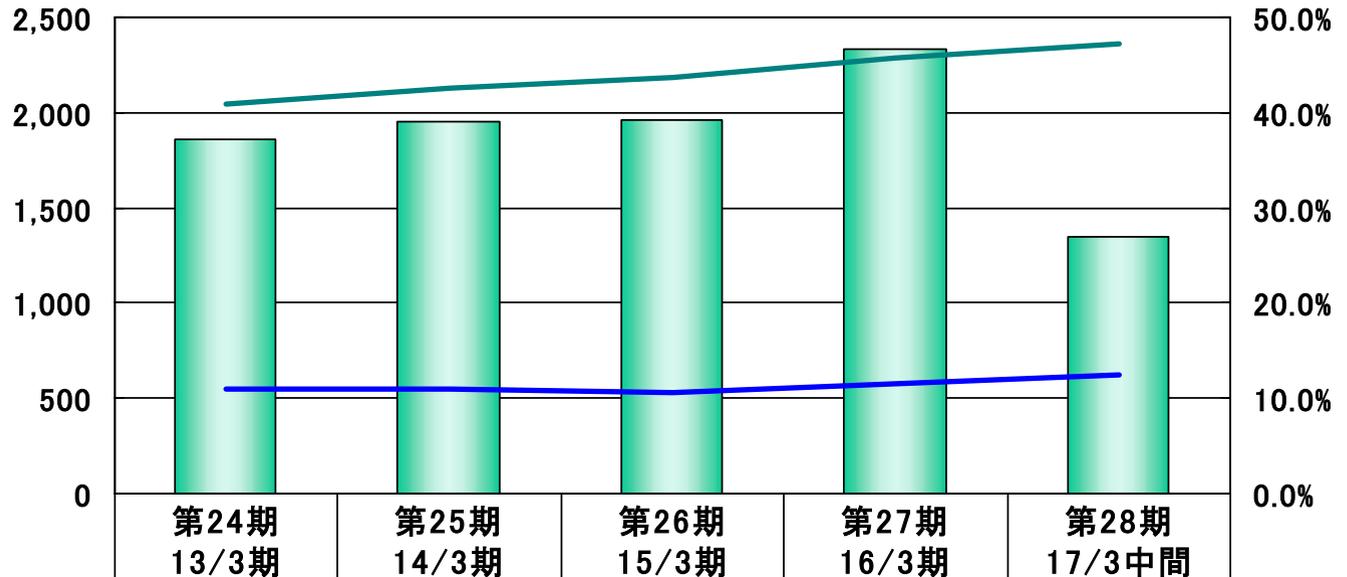
在来事業 149名 (58.2%)

新規事業 107名 (41.8%)

合計 256名 比率

研究開発費
(単位:百万円)

※A & D単
体での状況

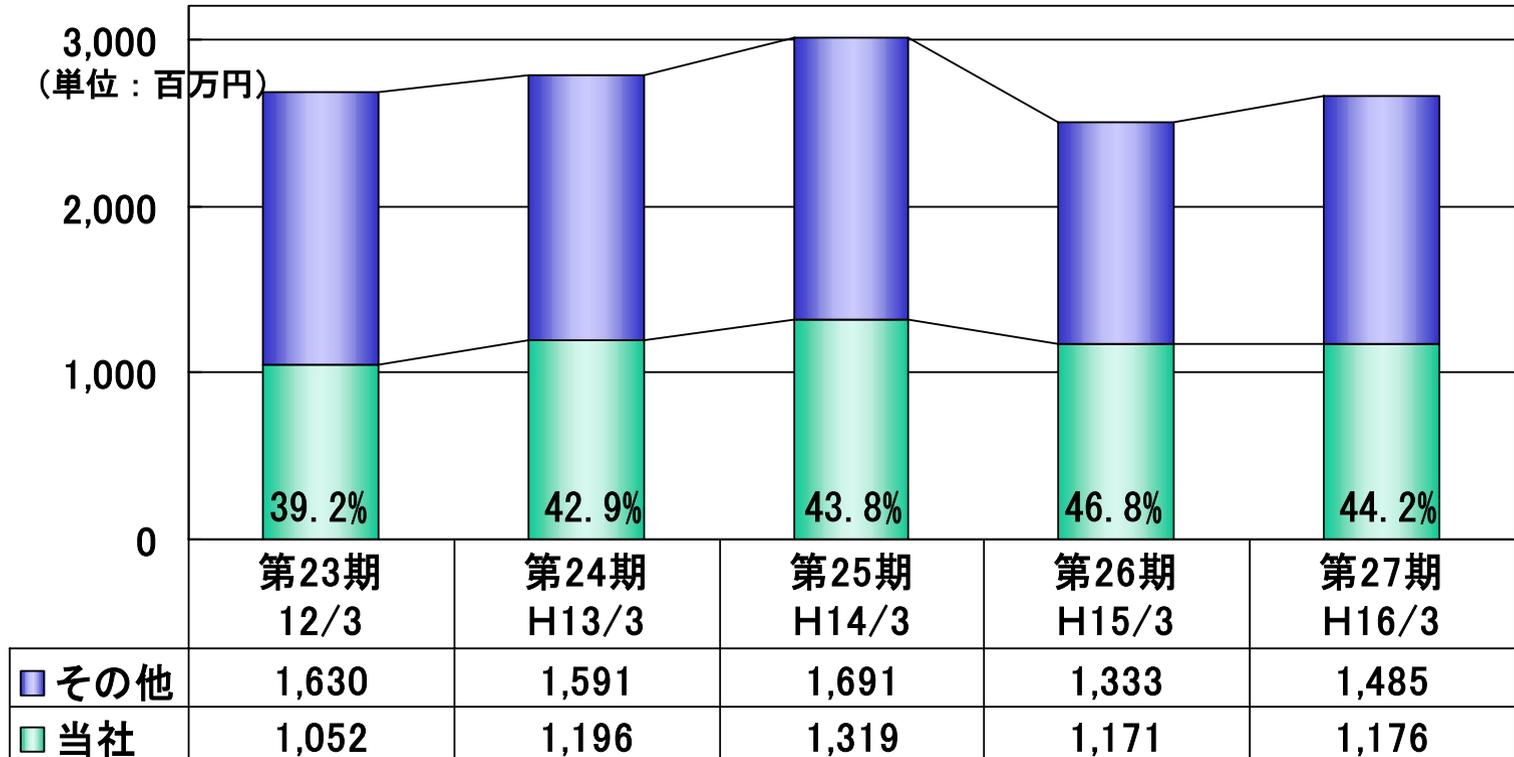


■ 研究開発費	1,860	1,951	1,963	2,337	1,346
— 売上高比率	10.9%	11.0%	10.6%	11.6%	12.4%
— 開発人員比率	40.9%	42.5%	43.6%	45.8%	47.3%

電子天びんの国内市場シェア



電子天びん市場シェアの推移～シェアNO1を維持～



多彩な機能が多様な用途と広範な市場を形成

微量精密測定・基準値に対する%表示・PC・プリンタとの接続・
 比重(密度)測定・個数計機能・動物計量 ...etc

AND
株式会社 **エー・アンド・ティ**